

## 似て非なるもの

### 1. キタキチョウ

打吹山の開けた場所で黄色いチョウが飛んでいたら、このキタキチョウです。60年前にはクロウメモドキという低木を食べる黄色のスジボソヤマキチョウがいたのですが、餌となるクロウメモドキが絶滅し、迷う必要がなくなりました。

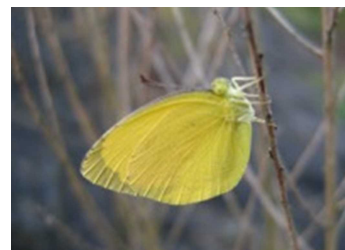
以前は、沖縄から本州にかけて生息するものはキチョウと呼ばれていました。2005年から2つに分けられ、沖縄のみにいるものをキチョウ、沖縄から本州まで生息するものをキタキチョウとよぶことになりました。DNAには明らかな差があるのですが、形態の違いはわずかです。



キタキチョウの幼虫

キタキチョウはモンシロチョウの仲間で、幼虫は同じ青虫です。幼虫はマメ科植物のネムやハギに付いていることでキタキチョウの幼虫とわかるくらいです。年に何回も卵から成虫へと世代を繰り返す、暖かい

時期に出現するものを夏型、寒さに向かう時期に成虫になるものを秋型といいます。秋型は成虫のまま冬を越し、春暖かくなると活動しますが、冬でも暖かい日には飛び出します。夏型と秋型は形態の上で大きな差があります。秋型になると翅の黒い部分が少なくなったり、なくなってしまうのです。種による形態の違いより、季節による違いの方が大きいことは生物には多々あります。温度や日照時間によって遺伝子の働き方が違うのです。

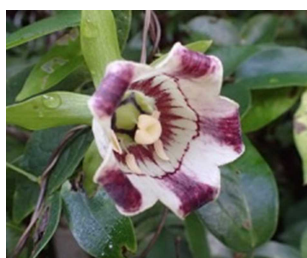


キタキチョウの秋型



キタキチョウの夏型

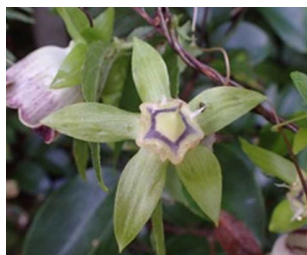
### 2. ツルニンジン(地図中①地点)



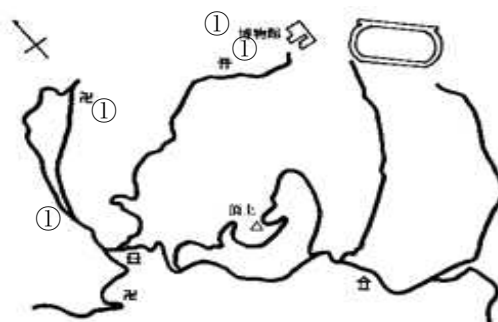
ツルニンジンの花

打吹山に個体数は多くありませんが、大きな派手な花がたくさん付き、よく目立ちます。

名にニンジンとつきますが、西洋人参ではなく高麗人参の意味です。つるを見てもわかりませんが、膨らんだ実を見ると似ているのがキキョウの仲間です。キキョウのように白いゴボウ状の根が分岐しており、この根が高麗人参に似ているということで命名されたものです。韓国ではキキョウの根を食用とし、ツルニンジンも高級食材とされているようですが、毒抜きが必要ですので食べないでください。



ツルニンジンの実



ツルニンジン根

別名にジイソブ(ジイイのそばかすの意)という呼称があります。花の内側の紫色の部分に由来するとのことですが、そばかすというよりも美しく見えます。